

「日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震・津波のオンライン勉強会」を開催

帯広測候所では、発生が切迫しているとされる「日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震・津波」に対して北海道太平洋側の自治体や防災機関の担当者向けにオンライン勉強会を令和3年2月15日～18日に開催しました。

日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震では、北海道の太平洋側の地域を中心に激しい揺れと巨大な津波に襲われる危険性が高く、その発生が切迫しているとされています。これらの地震・津波により地域にもたらされる被害、発災前の防災・減災対策から発災時の的確な状況把握や防災対応、発災後の復旧・復興策などについて幅広く考える機会となるよう、北海道太平洋側を管轄する気象官署（函館・室蘭・釧路各地方気象台、帯広測候所）と北海道大学、東北大学の6者が連携して勉強会を企画・実施しました。

勉強会は、新型コロナ対策としてインターネットを活用したWeb会議形式と録画映像を見る形式の2つの方法で実施しました。

【 オンライン勉強会カリキュラム 】

講義内容	講師
(2/15) 日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震・津波の概要と想定される被害	北海道大学大学院 理学研究院附属 地震火山研究観測センター 高橋 浩晃 教授
(2/15) 日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震・津波発生時に発表する情報とその活用（備え）	室蘭地方気象台 橋本 勲 台長
(2/16) 内閣府による「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震対策検討WG」及び北海道による「津波浸水想定設定WG」の動向	北海道大学大学院 理学研究院附属 地震火山研究観測センター 谷岡 勇市郎 教授
(2/16) 防災・減災にむけた各地の取り組み	NHK 釧路放送局 頼富 重人 記者
(2/17) 地域住民に対する防災活動	しらおい防災マスター会 民部 吉治 事務局長
(2/17) 自治体における住民への防災教育や避難促進（事例紹介）	白糠町 地域防災課 菊原 秀雄 課長
(2/18) 災害のフェーズと被災者支援	東北大学 災害科学国際研究所 情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野 定池 祐季 助教
(2/18) 迅速な復興まちづくりに向けた事前準備	北海道大学大学院 理学研究院附属 地震火山研究観測センター 高橋 浩晃 教授
(2/18) 意見交換会	

勉強会には、渡島・胆振・日高・十勝・釧路・根室管内の市町村や防災機関のうち 76 機関 121 名（事前申込数）のご参加のほか、北海道開発局・各開発建設部からも多数のご聴講をいただきました。

帯広測候所では、いつか必ず起こる巨大地震・津波に対する地域防災力向上への取組みを関係機関とも連携しながら、引き続き推進していきます。